

# モンゴル国からの活動報告 11 新人助産師の研修プログラムの開発

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

## はじめに

私は、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センターからモンゴル国に派遣されています。

本プロジェクトでの助産師の卒後研修の強化に関する取り組みが開始された2021年11月から2年が経ちました。“助産師が助産師を指導する”「助産師の臨床指導者」を養成する研修の開発と実施、5つの領域の専門研修の開発と研修の開始、助産師のコンピテンシーの創出、助産師の職務記述書に書かれている職務が実現できるようにMongolian National Standard（MNS）の改訂案の作成など、多くの活動をモンゴルの皆様と実施してきました。

現在、プロジェクトでは、新人助産師の研修プログラムの開発を中心とした活動を実施しています。また、モンゴル国内で「新人助産師の研修プログラム」が助産師の卒後研修の基盤となるように制度を整えるための準備をしています。これらの活動をご報告させていただきます。

## 1. ワーキンググループの設置

2023年8月22日、モンゴル国保健開発センターのセンター長令で「新人助産師の研修プログラム」及び「助産師の卒後研修ガイドライン」開発のためのワーキンググループが設置されました。モンゴル医科大学のTsetsegmaa先生（日本の大学院で博士課程を修了されています）をリーダーとして、保健省、保健開発センターの行政官、モンゴル助産師会、モンゴル医科大学、JICA、ウランバートル市内・地方3県の助産師など24名のメンバーで構成されてい

ます。8月24日に第1回ワーキンググループ会議が開催され（写真1）、ワーキンググループの設置の目的、助産師の能力強化につながる本活動がいかに関与するかの重要性、助産師の母子保健にとって重要であるかが話されました。



写真1 ワーキンググループ会議の参加者

## 2. 新人助産師の研修プログラムの開発

第1回ワーキンググループ会議では、新人助産師の研修プログラムの開発に向け、短期専門家として訪蒙された上智大学の佐山理絵准教授に「日本における新人助産師の教育」をご講義いただきました（写真2）。新人助産師の時期は、一人ひとりの助産師の助産観を形成し、助産師としての職業人生に大きな影響を与える重要な時期です。ワーキンググループのメンバーは、この重要な時期の研修プログラムを開発する意義、重要性、価値を感じながら、新人助産師の研修プログラムの開発に関する「新人助産師の定義」や「ウランバートルと地方の助産師の業務・研修参加に関する懸念事項」などの具体的な検討を始めました。特にウランバートル市内の助産師と地方の助産師が担う役割・職場環境等が違うことに配慮した内容が必要であること、開発する新人助産師の研修プログラムがどのようにモンゴル国内

で活用できるのか等、将来を見据えた議論までなされました。



写真2 助産師の卒後教育について説明される佐山准教授

### 3. 保健省で検討会を開催

2024年3月までに助産師の卒後研修のガイドラインの中に「新人助産師の研修プログラム」を追加し、「助産師の卒後研修のガイドライン」を最終化することを目指しています。しかし、モンゴル国では、「助産師の卒後研修のガイドライン」が完成するだけでは、まだ実行力を持ったものであるとすることができません。保健省内で内容が確認され、国のものとして「助産師の卒後研修のガイドライン」が必要な承認を受け、保健大臣令などの発令を伴うことではじめて各医療機関で活用されるものになります。

これらを見越し、2023年9月5日、保健省で「看護職の卒後研修の体制構築に関する検討会」を実施しました（写真3）。検討会には、保健省・保健開発センター、モンゴル助産師会、モンゴル医科大学、医療機関の管理職である看護師・助産師、JICA等の約



写真3 検討会の様子

50名が参加しました。モンゴル国からは、保健省のKhandarmaa氏が「モンゴル国の看護戦略」を、保健開発センターのNarantsetseg氏が「看護師と助産師の卒後研修の現状と課題」を発表しました。また、医療機関から新人看護師・新人助産師の研修などの現状と課題について共有されました。

日本からは千葉大学の島田陽子特任教授が短期専門家として「日本における看護職員の卒後研修の状況」をご講義くださり、日本の看護師・助産師の法的な位置づけ、卒後研修の法的根拠、研修の実施にいたるプロセスや事業などを詳しく共有されました（写真4）。保健省や看護管理者からは、日本の新人看護職の研修機関、看護師の育成の仕組み、専門看護師や認定看護師の育成やその条件など多くの質問がありました。島田特任教授が一つひとつの質問に、日本の経験と知見からモンゴルに必要なご助言をくださいました。また、保健省や保健開発センターの行政官らは、「助産師の卒後研修のガイドライン」が完成後に正式に国のものとして位置付けることを再確認し、関係者間で共通認識を持つことができました。



写真4 島田特任教授のご講義の様子

### おわりに

貴重なお時間をいただき、モンゴルまでお越しいただいた島田陽子先生、佐山理絵先生に心から感謝申し上げます。また、最後になりましたが、新人助産師の研修プログラムの開発等に関わるモンゴルの関係者、日本の先生方、JICA関係者など多くの方に心から感謝申し上げます。